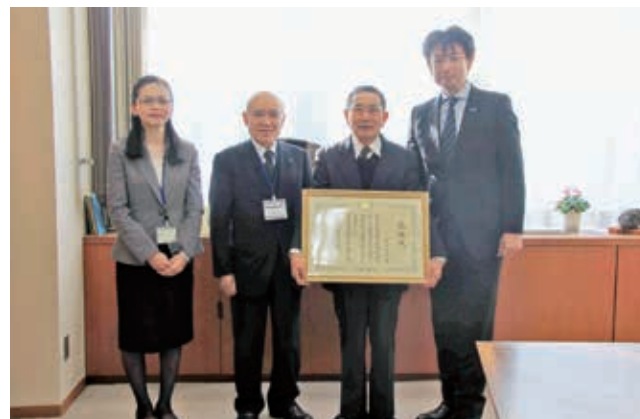




感謝状を伝達された重松巨人さん(右から2番目)

法務大臣感謝状伝達式

2月21日、人権擁護委員で平成28年4月1日付で退任した重松巨人さん(滝尾)へ法務大臣感謝状の伝達式が執り行われました。今回の伝達式は昨年の4月に予定していましたが、熊本地震の影響で延期となりました。町の人権擁護委員として3期9年間務め、街頭での啓発活動や未就学児に対しての人権学習などを先頭に立って活動しました。重松さんは、「世間では人権問題が話題になっている。人権に対して慎重な行動と相手の本当の声を聞く力、そして伝える力が大切」と話しました。

歴史ウォーキング

2月26日、町の歴史を学んで、歩く「歴史ウォーキング」が開催されました。歴史は、御船の幕末から西南戦争の歴史をたどるもので、観光ガイドを担当したのは御船LOVEクラブ(沖田昌史会長)。参加者は町内外から29人。熊本市から参加した石原奈津さんは「御船町には初めて来ました。町のことをしっかり勉強して帰りたいです」と話しました。最後は、みふね観音温泉華ほたるで温かいご飯を食べ、ゆっくり温泉に浸かりながら、参加者は御船町を満喫しました。



目鑑橋のことをガイドする御船LOVEクラブの志水敏則さん

伝統行事 みふね初市

春の訪れを告げる「みふね初市」が、2月26日に上益城地方のトップを切って開催されました。町の商工会(竹内昭剛会長)の主催で行われた初市の本町通りには、町内外からの出店が立ち並び、メイン会場では紅白もち・みかん投げやビンゴ大会など多くの人でにぎわいました。日が暮れ出すと、17時から商工会青年部主催で「御船屋台村」が開かれました。西往還通りに屋台村ならではのレトロな雰囲気の中、お酒や隣のお客さんと会話を楽しむ姿がありました。昔からずっと愛され続ける伝統市の光景がそこにはありました。



恒例の紅白・みかん投げ!必死にキャッチする参加者たち



出店でにぎわう人たち



屋台村也大盛況でした

未来に羽ばたく伝統の立志式

2月16日、御船中学校(吉見和洋校長・140人)の2年生が満14歳で迎える立志式(元服式)を行いました。立志式とは、今の成人式に当たるもので、これから進む道について“志を立てる”誓いをし、親へ感謝の言葉を述べるものです。式は、全員合唱から始まり、一人一人の思いを言葉にした構成詩の発表がありました。「壁にぶつかったときは、夢を思い出し、そこから這い上がる。これから社会を背負っていくのは私たち」と様々な発表がありました。2年4組の加納秀燦さんは「日頃から親に感謝しています。転機があったのは2年前。国



1_親への全員合唱 2_代表で発表した2年4組の加納秀燦さん 3_劇「〜おくりもの〜」生きることの素晴らしさを熱演しました 4_ゴールを目指して走る生徒たち 5_保護者たちの支援と声援を受ける

仮設住宅に生活用品の贈呈式

2月17日、今城仮設団地に住んでいる人たちに生活協同組合くまもと(吉永章理事長)から生活用品の贈呈式がありました。今回の支援は、全国の生協組合の会員(2800万人)からいただいたものであり、洗剤やせっけん、除菌ティッシュなどが贈られました。今城仮設団地代表の村本孝司さんは「仮設団地での生活もだいぶ慣れました。生活していくうえで、生活用品は必要不可欠。大事に使いたいです」と感謝を込めて話しました。生活用品は町内の仮設団地21ヵ所全てに配られます。



外に行き、世界を知ることができました。この経験を活かして、人としての平等とは何か考えられる人になりたいです」と発表しました。次に生徒たちの劇「〜おくりもの〜」がありました。2、3週間ほどしか練習ができませんでしたが、“生きていることの素晴らしさ”を改めて気付かせてくれる渾身の演技で、会場は割れんばかりの拍手で包まれました。最後は強歩会です。己を鍛え上げるために御船中を発着の場とし、嘉島町役場を折り返し歩きました。中継ポイントではたくさんの保護者や地域の人が応援し、バナナや水などが用意され、生徒たちを後押ししました。昼食は保護者たちによって作られた約250人分のカレーライスを皆で食べ、最後まで親の温かみを感じながら、立志式を閉じました。



みんなで「にっこり」記念写真

「あの時を振り返って」復興シンポジウム

2月19日、震災対応における「保健」・「医療」・「介護」の連携を考えるシンポジウムがグリーンヒルみふねで行われました。まず、発災直後の活動を町内の医療機関や介護施設、地域支え合いセンター、行政から5人の代表がリレートークで課題も含めて発表しました。基調講演では、石巻市包括ケアセンター所長の長純一先生が「大規模災害地における包括ケアの推進」をテーマに「地域づくりの大切さ」などを語りました。グループディスカッションでは、参加者全員でこれまでを振り返り、今後のことを考え、関係機関が連携し取り組む復興への足がかりとなりました。



グループディスカッションで発表する江藤崇文先生(江藤歯科医院)